



news release

**ポケットカード株式会社(8519) 平成20年2月期 第3四半期業績の概況(連結)
割賦購入あっせん部門、融資部門が順調に推移し営業収益は前年同期比4.6%の増収
利息返還請求関連費用等の増加により経常利益は前年同期比49.1%の減益**

ポケットカード株式会社(8519)の平成20年2月期第3四半期の業績は、割賦購入あっせん部門、融資部門が順調に推移した結果、営業収益は302億86百万円(前年同期比4.6%増)となりました。一方で利息返還請求の増加等に伴う営業費用の増加により、営業利益は31億33百万円(前年同期比49.1%減)、経常利益は31億25百万円(前年同期比49.1%減)、四半期純利益は15億66百万円(前年同期比57.2%減)となりました。

収入面では、割賦購入あっせん部門が、各種マーケティング施策の実施により、取扱高が1,777億36百万円(前年同期比14.2%増)と拡大したことに加え、ショッピングリボ拡大への積極的な取り組みにより手数料収入が増加したことで、営業収益は43億89百万円と前年同期比25.2%増の大幅な増収となりました。

融資部門については、新貸金業法及び自主規制ルール等への対応として、11月より新規のキャッシング商品の適用金利を利息制限法の上限金利内に引き下げ、また従来以上にきめ細かな与信を実施すると共に、新型低金利ローン商品の提供等により優良顧客の囲い込みを行った結果、債権流動化分を含む融資残高は1,414億86百万円(前年同期比0.3%減)、営業収益は239億53百万円(前年同期比1.4%増)となりました。

割賦購入あっせん部門、融資部門両面での順調な推移により、営業収益全体では302億86百万円(前年同期比4.6%増)の増収となりました。

一方、営業費用については、効率的な会員獲得の推進や明細書のオンライン化等によりコスト削減に努めましたが、昨今の利息返還請求の増加に伴う関連費用の増加等により、271億52百万円(前年同期比19.1%増)となりました。

以上の結果、営業利益は31億33百万円(前年同期比49.1%減)、経常利益は31億25百万円(前年同期比49.1%減)、四半期純利益は15億66百万円(前年同期比57.2%減)となりました。

【 単位: 百万円 】

	営業収益	経常利益	純利益
平成20年2月期 第3四半期連結業績	30,286	3,125	1,566
(ご参考)平成19年2月期 第3四半期単体業績	28,947	6,145	3,658
前年同期比	+4.6%	△49.1%	△57.2%

当第3四半期は連結初年度であるため、前年同期比較の比較対象として前第3四半期の個別財務諸表数値を使用しております。

◆ 第3四半期トピックス

ファミマクレジット株式会社とプロセシング事業を開始

ポケットカードは、保証事業において共同で事業展開を行っておりますファミマクレジット株式会社との間に、新たにプロセシング事業における包括的な業務提携を締結し、11月より同事業を開始いたしました。

同事業では、ファミマクレジットが発行する「ファミマTカード」の入会審査、カード発行、売上処理、お問い合わせ対応、途上与信、その他事務処理業務など、幅広い業務を当社が受託し、業務の効率化及びサービスレベルの向上を図ります。

当社にとって初のプロセシング業務の受託であり、貸金業法の改正に伴う当業界を取り巻く厳しい環境にも対応し得る、新たな収益の柱として確立してまいります。

以上